

## 南ア月報

(2012年2月)

在南アフリカ日本国大使館

### 1. 内政関連

#### ●マレマ青年同盟総裁の上訴棄却

4日、ANCのラマポーザ懲罰上訴委員会(National Disciplinary Committee of Appeal)委員長は、昨年11月にマレマANC青年同盟総裁及び他の5名の青年同盟幹部に下された懲罰の妥当性及びマレマ総裁等の上訴を踏まえ、本件の審議結果を発表した。同委員会は、ズマ大統領等ANC幹部への中傷を繰り広げ党内対立を扇動した罪、ボツワナ政府に対する中傷発言によりANCに不名誉をもたらした罪に関し、懲罰委員会で下された決定が妥当であるとし、マレマ総裁等上訴人の訴えを棄却、11月に下された懲罰(5年間の党員資格停止処分及び総裁ポストの明け渡し)の軽減は行われない旨発表した。

#### ●ズマ大統領、施政方針演説

9日、ズマ大統領は国会開会を宣言する施政方針演説を行った。同演説は、長期的な国家ビジョンに欠け、対外関係に関する言及はほぼなかったものの、インフラ開発を通じた失業・貧困・不平等の解消に焦点を絞り、具体的な事業を掲げることで幅広い人々の共感を得た。肝心の雇用創出に関しては、雇用創出の成果を無理矢理プレイアップするなどのポピュリスト的演出は避けた。また、新成長路(NGP)、開発主義的国家、国家計画委員会等、過去に表明したズマ政権の政策の関連性を説明し、これまでズマ政権で進めてきた政策の一貫性を印象づけた。同演説に対しては、当地メディアを含め全体としてポジティブな反応が見られた。

#### ●マンデラ元大統領、再度検査入院

25日、大統領府はマンデラ大統領が同日入院したことを明らかにした。マハラジ大統領府報道官は、「長らく本人より不調の訴えのあった腹部の問題について専門医に診てもらうための検査入院であり、緊急事態ではなく、命に別状はない」旨コメントした。26日午後到大統領府より「診断の結果、特に深刻な状態と見受けられるところがなかったので、担当医はマンデラ元大統領を退院させることとした」との声明が発表され、マンデラ元大統領は同日午後遅くヨハネスブルグのハウトン地区の自宅に戻った。

#### ●マレマANC青年同盟総裁、除名処分決定

29日、ANC懲罰委員会はマレマANC青年同盟総裁をANCから除名処分とする旨の決定を発表した。同委員会は、昨年11月に5年間の党員資格停止と総裁ポスト辞任を言い渡し、本年2月上旬、ANC懲罰上訴委員会(ラマポーザ委員長)にて情状酌量による減刑は行わないという決定を受け、再度最終的審議を行っていた。ハネコム委員長は、「マレマへのヒアリングをあらためて行ったが、全く後悔の念も感じられない」として党員資格停止よりもさらに厳しい「除名処分」を今回発表した。マレマには14日以内に再度上訴する権利が与えられている。

## **2. 外政関連**

### **●シリア情勢に関する南ア政府声明**

2日および6日、南ア国際関係・協力省は、シリア情勢に関する声明を発表した。2日付声明は、アラブ連盟の和平実現のための努力を評価するとともに、予期される外国からの軍事介入に対する非難が強調されている。

6日付声明は、中国およびロシアが拒否権を行使しシリア非難決議が安保理で否決されたことを受けた内容であり、決議案の最終テキストが、シリアにおけるレジームチェンジの強制を目指すものではなかったことを評価し、さらに同決議案が、シリア人主導の政治対話を推進する可能性を秘めていることを理由に、南アが賛成票を投じた旨言及している。なお、南アはこれ以前のシリア非難安保理決議を棄権しており、今回の賛成は方針転換とみることが出来る。

### **●AU委員長選挙関連**

12日、ケープタウンにて、SADC臨時国家間政治外交委員会（ISPDC）会合が開催され、SADCとして、ドラミニ＝ズマ南ア内相のAU委員長立候補に引き続きコミットし、そのために連帯することを決定した。

### **●マダガスカル情勢**

12日、ケープタウンでのSADC臨時国家間政治外交委員会（ISPDC）会合で発表された声明の中で、SADCはマダガスカルの全ての利害関係者に対し、SADCがマダガスカルへの制裁解除を検討するために、ロードマップ履行のプロセスを促進するよう促した。

### **●ヘーグ英外相南ア訪問**

13日、ヘーグ英外務大臣は南アを訪問し、ケープタウンにてヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣と会談した。その後の両外相による共同記者会見において、両外相とも、シリア情勢に関し、アラブ連盟・国連合同平和維持軍というアラブ連盟の提案を歓迎するも、まずは停戦・和平合意が先決との立場を表明した。また、ヘーグ大臣は、同軍に欧米が参加すべきでないとの立場を明らかにした。さらに、ヘーグ大臣は、EUによる対ジンバブエ制裁解除の可能性は低いことを示唆した。

### **●ズマ大統領の外遊**

18－19日、ズマ大統領は、AU議長のヤイ・ベナン大統領の招待により、ベナンを訪問しAU協議会合に出席した。会合では、AU委員長選挙の他、AU内のキャパシティ・ビルディング、アフリカの経済統合や政治統合等につき話し合われた。ズマ大統領は、協議は有益で率直なものだったと評価した。

さらに、19日の南アへの帰路、ズマ大統領はアンゴラに立ち寄り、SADC議長のドスサントス大統領と協議を行った。

29－翌月1日、ズマ大統領はボツワナ及びナミビアを訪問し、アフリカの問題や二国間関係につき協議した。

### **●ヌコアナ＝マシャバネ国際関係協力大臣の外遊**

19－20日、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣は、メキシコで開催されたG20閣僚級会合に出席した。

また、21日には、**英国主催ソマリア首脳級会合**に出席した。

#### ●国際関係・協力副大臣の外遊

26日、エブラヒム国際関係・協力副大臣は、**エジプト**を訪問し、両国経済協力関係の強化等につき協議した。

27-翌月2日、フランスマン国際関係・協力副大臣は、スイスのジュネーブを訪問し、第19回**UNHCR**ハイレベル・セグメント会合に出席した。

### 3. 経済

#### <経済指標>

##### ●成長率

南ア統計局によると、2011年度の第4四半期に南ア経済は3.2%の成長となった。これは、主に消費者の消費活動に依拠している。なお、第3四半期の成長率は、1.5%から1.7%に上方修正された。ヨーロッパ地域への輸出は南アの輸出の約35%を占めるため、ヨーロッパにおける不況は南アの製造業部門の成長の足かせになる見通し。2012年の経済成長は2.8%、または2.8%以下となる見通し。

##### ●失業率

南アの労働力調査による公式失業率は、第3四半期の25%から第4四半期には23.9%に低下した。正規部門では第4四半期には18万、年間を通して36万5千の雇用を創出した。これは、主にランド高の影響を受けた貿易部門、コミュニティ関連の部門の増加に依拠している。しかしながら、こうした雇用創出は、新卒レベルの労働市場は対象とはならないものであった。

##### ●製造業

南ア統計局によると、12月の製造業生産は対前年比2.4%の成長となり、11月の2.8%を下回った。製造業生産は11月の対前月比の成長2.9%から12月には1.3%に低下した一方で、第4四半期には第3四半期から1%の伸びがみられ、最低の時期を脱出したことが示唆される。

##### ●自動車販売

南ア自動車製造業者協会（NAAMSA）によると、2012年1月の国内における新車販売は48,251台と2011年12月の販売台数（45,107台）を上回り、2007年1月以降で最大の売り上げとなった。アナリストによると、消費者支出の一般的な指標でもある自動車販売の好調が今後も継続するとの見通し。

##### ●小売業販売

南ア統計局によると、12月の小売販売は対前年比で8.7%増となり、予想されていた6.5%を上回った。12月の売り上げは、11月（0.1%減）の落ち込みから1.3%増加となった。スタンダード銀行のエコノミストは、消費者は歴史的に低い金利に支えられていたが、物価の上昇は最終的に可処分所得に影響し、GDPの約60%を占める家計の消費を抑制すると指摘した。

#### <出来事>

●2月22日、ゴードン財務大臣は2012/13年度の予算を発表した。予算規模は1.1兆ランドに増加する一方で、財政赤字は対GDP比を昨年10月の5.5%よりも低い4.8%に抑制することを目指すものとなった。財政赤字は、今後2年間で3%まで抑制される。これを受けて、格付け会社が南アに新たな光を見出すことが期待できる。財政演説後、ゴードン財務大臣は財政赤字を予定よりも早いスピードで削減することは、格付け会社の評価の低下を防止すると発言した。

●対南ア外国直接投資（FDI）は2011年には45億ドルと対前年比で3倍以上の伸びがみられた。一方で、この数値は、WalmartによるMassmartの株式の51%買収が大きく影響しており、買収が成功すれば半減する可能性もある。現在24億ドルの取引に対する訴訟が行われており、判決は3月中に下される見込み。訴訟団体は、同買収は労働者及び地元の供給業者が打撃を受けると主張する。訴訟が成功すれば、Walmartは買収を取り下げることとなる。

●ブラック・エコノミック・エンパワーメント修正法案は、会社経営者に対する罰金や刑務所での拘束といった極端な罰則を設けており、産業界との交渉によって成立した特別条項を含むエンパワーメント関連の法案にも効力を発揮することが予想される。鉱山会議のCEOは、鉱山条項は鉱山部門の変革を規制する条項として引き続き機能するものと確信すると発言した。

●ロス・チャイルド・グループは、マイニング・インダバで、鉄道、港湾、上昇する人件費、高額な電気料金などの南アのインフラ問題は、鉱山部門の成長を妨げていると発表した。GDPの8.8%を占める鉱山部門の生産は、過去10年間でわずか1%の成長となった。マニユエル国家計画担当大臣は、鉱山部門の低生産問題を解決するためには、政策・規制、適正課税、インフラ改善、官民連携、炭素排出の削減の5つの問題に取り組む必要があると指摘した。

#### **4. 広報・文化**

##### **●バイオリニストとハーピストによるデュオ・X [iksa] (イクサ) のコンサート**

日本人バイオリニストの辺見康孝氏とハーピストの松村多嘉代氏によるデュオ・X [iksa] (イクサ) が1月24日から当地を訪問し、ヨハネスブルグで当地作曲家マイケル・ブレイク氏らとともにワークショップを行うとともに、2月1日にはヨハネスブルグ・インターナショナル・モーツァルト・フェスティバルの公演としてコンサートを行ったほか、5日にヨハネスブルグ郊外、7日にステレンボッシュ大学でそれぞれコンサートを行った。同デュオは南アフリカ航空の機内誌でも紹介されるなど、当地においても高い注目を浴びた。

#### **5. 警備・治安**

##### **●頻発する強盗被害**

南アは、殺人事件や強盗事件の発生件数が非常に多い。在留邦人や邦人旅行者も、その被害者となっている。

昨年11月から今年4ヶ月間で5件（連続4ヶ月）の邦人被害の強盗事件が発生している。

被害状況に共通しているのは、いずれも歩行中の路上強盗被害であり、単独で歩行している際に被害に遭っていることである。時間帯は昼間や夜中、明け方等まちまちであり、被疑者は2名～5人程度の徒党を組み犯行に及んでいる。手口はけん銃や刃物を使用して脅すものや、首を締めてその場に引き倒すもの、数人で手足を掴み抵抗不可能にした状態で所持金を奪うもの等である。

最近では軽傷のみの被害で、重大な身体被害は報告されていないが、犯人らはけん銃や刃物等の凶器も所持しているため、殺人事件等に発展する蓋然性は相当高いと見られる。

(了)